

第七十四回帝國議會  
衆議院

朝鮮事業公債法中改正法律案委員會會議錄(速記)第三回

會議

昭和十四年二月十日(金曜日)午後一時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 菊池 良一君

理事岡野 龍一君 理事田中 好君

理事森下 國雄君

栗山 博君 松尾 三藏君

內藤 守正君 松山常次郎君

沖島 鎌三君 鈴木 文治君

同月七日臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)、朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出)及朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)ノ審査ヲ本委員ニ付託セラレタリ

出席政府委員左ノ如シ

拓務政務次官 寺田 市正君

拓務參與官 江藤源九郎君

拓務省殖産局長 植場 鐵三君

朝鮮總督府政務總監 大野綠一郎君

朝鮮總督府財務局長 水田 直昌君

朝鮮總督府鐵道局長 工藤 義男君

臺灣總督府財務局長 嶺田 丘造君

樺太廳長官 棟居 俊一君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)

朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

○菊池委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス、去

ル七日ニ臺灣事業公債法中改正法律案、朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案、朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ三案方付託ニナ

リマシタ、之ニ付テ政府委員ノ説明ヲ求メ

タイト思ヒマス、第一ニ朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案、第二ニハ朝鮮鐵道株式會

社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、其ノ次ニ第三番目ニ臺灣事業公債法中改正法律案ノ御説明ヲ伺ヒ

タイト思ヒマス

○寺田政府委員 私ハ朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

朝鮮ニ於テ同法ニ依リ現ニ補助金ヲ交付

シツツアル私設鐵道ハ、朝鮮鐵道、朝鮮京

南鐵道、金剛山電氣鐵道、朝鮮京東鐵道及

ビ新興鐵道ノ五社ノ經營ニ係ル延長一千百六十杆六分ノ鐵道デアリマスガ、朝鮮私設

鐵道補助法ニ依リマス、其ノ補助期間ハ基本期間ヲ營業開始ノ日ヨリ十五年トシ、

朝鮮總督ニ於テ必要アリト認メマシタ場合ハ、更ニ五年ヲ限り之ヲ伸長シ得ルコトト

ナツテ居リマスノデ右補助鐵道中朝鮮鐵道、朝鮮京南鐵道、金剛山電氣鐵道及ビ新

興鐵道ノ四社ノ補助期限ハ昭和十四年度中

ニ滿了スルコトトナツテ居リマス、然ルニ右諸鐵道ハ何レモ未ダ業績ノ進展豫期ノ如

ク擧ラズ、尙ホ當分政府ヨリ相當ノ補助ヲ

シナケレバ經營困難ノ狀態デアリマス、而

シテ是等ノ鐵道ハ朝鮮開發上重要ナル鐵道

ニシテ、又國營代行線タルノ意義ヲモ有シ

マスルニ鑑ミマシテ、是ガ助成上必要ニ應

ジ更ニ五年間延長シ得ルノ途ヲ開クコトト

致シマシタ、尙ホ補助方法ニ付キマシテモ、

金利ノ著シク低下致シマシタ經濟界ノ趨勢ニ照シ、又内地トノ權衡ヲモ考慮致シテ、

此ノ際補助率及ビ益金留保率ヲ引下ゲ、所謂補助基本期間及ビ伸長期間ヲ通ジ補助率

ハ一律ニ之ヲ五分トシ、又益金留保率ハ之ヲ一分ト致シマシタル外、毎年ノ補助金最高額法定ノ制度ヲ改メ、補助額ハ毎年之ヲ豫算ニ於テ定ムルコトト致シタノデアリマス

而シテ現ニ補助ヲ受ケツツアル鐵道ニ對シマシテハ、所謂既得權ヲ尊重シマシテ、現

在ノ補助期間滿了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日マデハ尙ホ從前ノ例ニ依リ補助スルコトト致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ

付託議案

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)  
明治四十五年法律第二十三號中改正法律案(樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル件)(政府提出)  
臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)  
朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出)  
朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

上御協賛アランコトヲ希望致シマス

○松村政府委員 朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ハ、既ニ第六十九回帝國議會ニ於テ協賛ヲ經マシタル朝鮮國有鐵道中央線ノ建設工事ノ進捗ニ伴ヒマシテ、之ニ連絡スルコトト相成リマスル朝鮮鐵道株式會社所屬ノ慶北線、即チ朝鮮國有鐵道ノ慶北線金泉驛ヨリ北上致シマシテ、慶尙北道ノ略、中部ニ位スル慶北安東驛ニ至リマスル延長百十八軒一分ノ私設鐵道ハ、將來中部朝鮮ニ於ケル國有鐵道ノ運輸系統整備ノ必要上ヨリ致シマスルモ、將亦右ノ中央線ノ建設工事用諸材料運送ノ便宜上等ヨリ致シマスルモ、昭和十四年度ニ於テ之ヲ買收スルヲ適當ト認メタノデアリマスルガ、是ガ買收代價トシテ交付スベキ公債ヲ發行シ得ルコトトスルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御協賛ヲ御願致シマス

臺灣事業公債法中改正法律案提出ノ理由ヲ御説明致シマス、臺灣事業公債法中改正法律案ハ臺灣總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費港灣費ニ付テ追加致シマシタル中部

港築港工事ニ要スル經費千五百万圓並ニ昭和十四年度豫算ニ計上シタル鐵道改良ニ要スル經費三百四十万圓、合計千八百四十万圓ニ付キマシテハ其ノ經費ノ性質及ビ同特別會計設計ノ現狀ニ鑑ミマシテ、之ヲ公債財源ニ依ルコトト致シマシタル所、現行ノ臺灣事業公債法ニ依ル公債ノ發行餘力ガ十一万餘圓アリマスル爲メ、差引千八百三十万圓ダ

ケ現行ノ臺灣事業公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスノデ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御贊成ヲ願ヒマス

○菊池委員長 此ノ際御諮リヲ致シマス、此ノ委員會ニ五ツノ議案ガ審議サレルコトニナツテ居リマスガ、其ノ中三ツハ朝鮮關係ノモノデアリマスルカラ、此ノ三案ヲ一括シテ審議スルコトニ致シテハ如何デゴザイマスルカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○菊池委員長 異議ナシト認メマス、左様決定致シマス、ソレデハ發言ノ通告ガアリマスガ、先ヅ森下君カラ御質問ヲ御願ヒシマス

○森下委員 私ノ御尋申上ゲマスコトハ既ニ政務總監モ十分御承知デアリ、全部此ノ事ニ付キマシテハ御尋申上ゲナクモ御分リノコトト存ズルノデアリマスガ、今度ノ朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案ニ付キマシテハ、二點ニ付テ御伺シタイと思ヒマス、

一ツハ補助方法ノ改正、其ノ二ハ補助期間ノ延長デアリマス、今度提案セラレマシタ朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案ハ、朝鮮ニ於ケル私設鐵道ノ助成上、是ガ經營ノ實績ニ鑑ミマシテ、補助方法ノ改正ト補助期間ノ延長トノ二點ニ付テ改正ノヤウデアリマスガ、是ハ私ガ見ル所ニ依リマスト改正ト云フヨリモ、見方ニ依リマシテハ改惡ト云フヤウナ方ニ行キハシナイカトモ私ハ思フノデアリマス、第一ハ補助方法ノ點ニ付テデアリマスガ、現行法ニ於キマシテハ、

第二條ノ第一號ニ於テ營業開始ノ日ヨリ十五年間ハ「每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年六分ノ割合ニ相當スル金額」ノ補助ヲ與ヘ「但シ每營業年度ニ於ケル益金ガ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス」ト云フコトニナツテ居リマス、是ハ今御説明ヲ伺ヒマシタ、又第二ニ付テハ朝鮮總督ガ必要アリト認メテ更ニ補助期間ヲ五年ヲ限り伸長シタ場合ノ補助金額ハ建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ補助スルコトトシ、每營業年度ノ益金ガ建設費ニ對シ年一分五厘ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ補助金ヨリ控除スル規定トナツテ居リマス、然ルニ今度

ノ改正ニ依リマスルト、之ヲ一律ニシテ其ノ補助金ハ「每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度トス」トナツテ居リマス、又「每營業年度ニ於ケル益金ガ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス」トナツテ居リマス、此ノ點ヨリ考ヘマス、此度ノ改正ハ補助額ノ低下ト云フ結果ヲ來スノデアリマシテ、朝鮮ノ現在ノ金融界ノ狀況、内地トノ關係

權衡上之ヲ斯ウシタト申シテ居リマス、併シナガラ朝鮮ニ於ケル私設鐵道ノ業績ガ非常ニ好成績ヲ示シテ、或ハ補助ノ必要ガナクナツタト云フコトデアリマスレバ、是ハ洵ニ結構ナコトデアリマスガ、今日ノ狀態デハ果シテ其ノヤウナ成績ヲ擧ゲテ居ルヤ否ヤ、元來朝鮮ノ私設鐵道ハ内地ノ私設鐵道ニ比較致シマシテ、其ノ乘客ニ於テモ、又貨物ニ於キマシテ數量ガ頗ル少イノデアリマス、隨テ鐵道ノ收益モ少イノデアリマスガ、態、此ノヤウナ收益ノ擧ラナイ鐵道ニ補助ヲ與ヘテ經營セシメテ居リマスルコトハ、其ノ特異性ト申シマスカ、朝鮮ノ統治上、拓殖上、殊ニ此ノ時局ノ上カラ鑑ミマシテ政府ノ指導獎勵ニ基イテ之ヲ經營シテ居ルノデアリマスカラ、此ノ點ヨリ

考ヘマシテ、此度ノ改正ハ補助率ノ低下ヲ  
來シ、業者ヲシテ不安ニ陥レル虞ガ十分私  
共ハアルト思ヒマス、一面内地ノ金融界或  
ハ朝鮮ノ金融市場ノ現狀ニ鑑ミテ、引下  
云フコトハ結構デアリマスガ、一面時局  
カラ見マスルト、更ニ是ノ面倒ヲ見テヤラ  
ナケレバナライノデヤナカラウカト云フ  
考モ起ツテ來ルノデアリマス、此ノ第二ノ  
點ニ付キマシテハ、年限ノ延長ノ點デアリ  
マスガ、現行法ニ於テハ其ノ第一條ニ「朝  
鮮總督ハ朝鮮ニ於テ公衆ノ用ニ供スル爲經  
營スル私設鐵道ニ對シ該鐵道營業開始ノ日  
ヨリ十五年ヲ限リ補助金ヲ交付スルコトヲ  
得」トシデアリマス、更ニ第一條ノ第二項  
ニ「朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ更  
ニ五年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ  
得」ト規定シデアリマスガ、此度  
ノ改正法律案ニ依リマス、此ノ二項ノ五  
年ヲ十年ニ改メタノデアリマシテ、是ハ一  
面カラ見マスレバ私設鐵道ニ對スル補助ノ  
期間ヲ延長シテ、業者ヲ更ニ長イ期間補助  
スルガ如クニ見ラルルノデアリマスルガ、  
實際ニ於テハ此ノ期間ノ延長ハ却テ業者ヲ  
シテ不安ニ陥レルト云フ結果ニナル、ソレ  
ヨリ他ニ何トカ方法ハナイカ、何トナレバ  
先程申上ゲタ通り、朝鮮ノ私設鐵道ハ内地

ノソレト異ナリ、拓殖上或ハ統治上、特ニ  
モット露骨ニ言フナラバ軍事上ト云フ言葉  
ヲ使ツテ宜イト思ヒマスガ、軍事上政府ノ  
指導獎勵シテ居ル鐵道デアリマシテ、國防  
上或ハ産業上又ハ交通上重大ナル意義ヲ有  
スルノデアリマシテ、之ヲ私鐵ニ委シテ置  
クヨリハ寧ロ政府當局自ラガ施設經營スベ  
キ性質ヲ有スルモノデアリマシテ、政府ト  
致シマシテモ此ノ點ニ付キマシテハ屢言  
明シテ居ラレマシテ、隨分長イ間、前ノ總  
監ノ時モ今ノ大野總監ニナリマシテモ、此  
ノ點ハハツキリ御言明ニナラレテ居ルノデ  
アリマス、昭和九年度ノ改正ニ依リマシテ  
モ時ノ拓務大臣ヨリ此ノ朝鮮ニ於ケル私設  
鐵道ノ特殊性ト是ガ買収ニ關シテハ御説明  
ガアツタノデアリマス、更ニ一昨年、昭和  
十二年度ノ議會ニ於テモ大藏大臣、又拓務  
大臣ヨリモ是ガ買収ニ付テ御説明ガアリマ  
シタ、是等ノ説明ヲ綜合致シマスト、從來  
ノ補助年限ノ終了期間マデニ、即チ昭和十  
四五年マデニ主ナル私設鐵道ヲ買収スル  
云フ結論ニ到達シテ居ルト私ハ考ヘタノデ  
アリマス、併シナガラ時局ノ影響ヲ受ケマ  
シテ公債ヲ發行スルコトヤ、サウ云フコト  
ニ支障ヲ來シテ今日ニナツタノデアリマシ  
テ、御尤ノコトトハ存ジマスガ、是ハサウ云

フコトヨリモ更ニ一步ヲ進メテ私ハ朝鮮當  
局ガ一日モ早く御經營ニナルト云フ考ヲ斷  
行スルコトガ一番大切デハナイカ、監督上  
色々ノコトガアリマシテモ、弊害モ相當ニ  
之ニハ伴ツテ居ルヤウデアリマス、是ハ補助  
金額ヲ下ゲルト云フコトヨリモ、低金利  
ノ時代デアリマスカラ、思ヒ切ツテ低利ナ  
公債ヲ發行シテ、寧ロスウ云フモノハ買収  
シテシマツタ方ガ宜イノデヤナйкаト云フ  
ノガ私共ノ考ナンドス、無論當局ニ於キマ  
シテハ其ノ意思デアラレマスコトハ重々私  
共ハ御察シ申上ゲテ居ルノデアリマスケレ  
ドモ、是ハ是非私設經營ニ委スベキモノデ  
ハナクテ、當局ガ一日モ早く買収スル、出  
來得ベクンバ此ノ五年ノ延長ノ期間内ニハ  
思ヒ切ツテ寧ロ低利ナル公債ニ依ツテ買収  
スルコトガ出來ルト私共ハ思フ、低金利ノ  
時代デアルガ爲ニ、少シバカリノ補助金ヲ  
ヤルヨリハ、思ヒ切ツテ是ハ統一サレタ、  
一元化サレタ此ノ東亞ノ時局ノ現狀ニ鑑ミ  
テ、朝鮮鐵道ト云フモノハ全部一元化ノ下  
ニ動かシテ行クト云フコトガ最モ必要ナモ  
ノデハナイカト私共ハ考ヘマシテ、是ハ是  
非サウ致シテ戴キタイト云フノガ吾々ノ希  
望デアリマスシ、ドウゾ又其ノ點ニ付キマ  
シテ政務總監カラ御親切ナル答辯ヲ戴キタ

イト思フノデアリマス  
○大野政府委員 此ノ度改正法ニ依リマシ  
テ先ヅ補助方法ヲ變更致シテ居リマス、御  
示シノヤウニ、從前六分、又保留利益ガ一  
分、又十五年ヲ過ギタモノニ付キマシテハ  
五分ト一分五厘、之ヲ一律ニ五分ニ致シテ  
居リマス、左様ナ譯デ從前ノ補助率ニ比ベマ  
スルト低下致シテ居リマスルコトハ御示シ  
ノ通りデアリマス、而シテ殊ニ朝鮮ニ於ケ  
ル私設鐵道ノ必要性又特殊性ニ付キマシテ  
ハ、全ク御示シノ通りデアリマシテ、産業  
上モ國防上モ又統治上モ頗ル大切デアリマ  
ス故ニ、斯様ナ補助ヲ與ヘテ是ガ經營ヲ獎  
勵致シテ參ツタ譯デアリマス、併シナガラ  
其ノ補助率ニ付キマシテハ、ヤハリ一般ノ  
金利、一般ノ經濟界ニ於ケル企業利潤ニ順應  
シテ補助セラルベキモノデアルト考ヘテ居  
リマス、是ハドウシテモ全般ノ資本ニ對ス  
ル利率ガ低下致シマスレバ、ドウモ從前ノ  
儘ヲ維持スルコト云フコトハ、却テ合理的デ  
ナイト考ヘテ居リマシテ、左様ナ理由ヲ以  
チマシテ此度下ゲタ譯デアリマス、又其  
ノ爲ニ十五年經過ノモノニ付キマシテモ、  
保留率モ從前ノ一分五厘ヲ全般ノ一律ニ一分  
ニ致シタ譯デアリマシテ、是ガ爲ニ事業ノ  
經營ニ非常ニ惡イ影響ヲ與ヘルト云フ事柄

ハナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ今ノ補助年限ノ問題デアリマスガ、森下サンカラ縷々御話ガアリマシタ通りニ、全ク朝鮮ノ鐵道ハ御話ノヤウナ性質ノ鐵道デアリマスガ故ニ、ヤハリ出來得ベクンバ之ヲ買収シテ政府自ラガ經營スルト云フコトガ總テノ點カラ宜シイノデアリマス、又左様ナ方針ヲ以テ私共參ツテ居ルノデアリマスガ、何分今日ノ情勢デアリマシテ、公債ノ發行ガ一般ノ財政計畫ト關聯致シテ居リマシテ、之ヲ得ルコトニ相當ノ困難ガアリマス爲ニ、既ニ慶北線ノ如キモ今日マデ延ビテ參ツタヤウナ譯デアリマス、併シ出來得ル限り其ノ方ノ當局ト能ク協議ヲ致シマシテ、御示シノヤウナ趣旨、又私共常ニ議會ニ於テ御説明申上ゲテ居リマスヤウナ趣旨ニ努力致シタイト考ヘテ居リマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

○森下委員 鐵道ノコトニ付キマシテハ更ニ田中委員ニ詳細ナ御尋ヲ御願スルコトトシテ、許可ヲ得マシタノヲ機會ニ、甚ダ恐縮デアリマスガ、關聯事項ニ付テ一寸御質問申上ゲタイト思ヒマス、此ノ機會ニ總監カラ御言明ヲ得レバ幸ヒダト思ヒマス、今カラ三年程前デアリマス、今井田政務總監時代ニ言明ヲ得タノデアリマスガ、今ノ朝

鮮ハ米ヲ作ルコトヲ絕對ニ獎勵シナイ、サウシテ南棉北羊、南ニ於テハ棉花ヲ作り、北ニ於テハ綿羊ヲ努メテ獎勵スル色々ナ施設方法ヲ講ジテヤツテ居ツテ、將來ハ南ノ方デ年産五億万斤ヲ理想トシテヤツテ居ル、隨テ米ニ付テハ將來計畫ヲ立テナイノダ、斯ウ云フコトヲ言ツテ居ラレマスガ、此ノ三年來、内外ノ情勢ニ相當ノ變化ヲ來シテ居リマシテ、私共ノ會テ想像シナカッタ國民ノ食糧問題ト云フモノガ今ヤ重要ナル日本ノ國策ノ問題ト變ツテ參リマシタ、内地、臺灣、朝鮮ヲ通ジテ必ズシモ此儘簡單ナ言葉デ、何トカスルト云フ位ナヤリ方デハイケナイノデハナイカ、寧ロ朝鮮ニ對シテハ各種ノ犧牲ヲ拂ツテ、產米計畫ガ非常ナル奏效ヲシ、一時ハソレニ脅威サレルヤウナコトモアリマシタガ、現在ニ至リマシテハ朝鮮モ相當ナ努力ヲシテ行カナケレバナラヌト思フ、聞ク所ニ依リマスト、二百萬石増產計畫ヲ御立テナツタト云フヤウナ御話ヲ漏レ承ツテ居リマスガ、サウ云フ事實ガアリマスカ、ソレヲ一寸……

○大野政府委員 朝鮮ノ產米計畫ノ沿革ニ付キマシテハ、御示シノヤウニ當初三十五萬町歩ノ開墾ヲスル計畫ヲ以チマシテ實行ヲ始メ、段々増產ガ出來マシタ、所ガ御承

知ノヤウナ米ノ問題ガ起リマシテ、當時サウ云フヤウナ事情カラ其ノ計畫ヲ一應打切リマシテ、現在約十六萬町歩ヲ完成致シマシテ其ノ儘打切ニナツテ居ル譯デアリマス、又別途ニ於テ或ハ棉花ノ栽培等ヲヤツテ居ツタ譯デアリマス、今日ノ情勢ニ於テ米ノ需給等ニ付テハソレノ中央政府ニ於テ畫策致シテ居ル譯デアリマスガ、御示シノヤウナ情勢ニ鑑ミマシテ、朝鮮ニ於キマシテハ内地ト能ク連絡ヲシテ、サウシテヤハリ或ル程度ノ増產ヲスル必要ガアルノデハナイカ、斯様ナ趣旨カラ致シマシテ、農林省又拓務省トモ能ク連絡ヲ致シマシテ、先ヅ開墾干拓ト云フヤウナ根本的ナ方法ニ依ラズシテ取敢ズ反當收入ヲ増加スルト云フヤウナ方法ニ於キマシテ、約四十萬圓程ノ豫算ヲ計上致シマシテ、御示シノ二百萬石ヲ目標ニ兎ニ角品種ヲ改良シ、或ハ技術ヲ指導シ、或ハ又害蟲ノ驅除ヲスルト云フヤウナコトデ、二百萬石ヲ目標ニ進シテ居ル譯デアリマス、何分米ノ關係ハ頗ル「デリケート」ナモノデアリマスノデ、根本的ナ問題ニ付キマシテハ、或ハ農林省ナリ、拓務省ナリト更ニ打合セ研究スル機會ガアルノハナイカト考ヘテ居リマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○森下委員 朝鮮カラ滿洲ニ輸出シテ居ル

米ノ數量ガ決ツテ居ルト思ヒマスガ、大體初メニ決メラレタ數量ハドウナツテ居リマセウカ、今ソレヲ突破シテ澤山滿洲ノ方ニ行ツテ居ルカ、其ノ數量ノ割合ハドウナツテ居リマセウカ

○大野政府委員 朝鮮カラ滿洲ニ輸出シテ居リマス數量ハ、實ハ輸出ニ付テハ總督府若クハ稅關等ノ許可ヲ受ケルコトニナツテ居リマスノデ、一昨年ガ五萬石位、ソレカラ十三年度ガ二十九萬石位、ソレダケラ過去ニ於テ許シテ居ル譯デアリマス、ソレデ今日ノヤウナ情勢ニナリマシタノデ、ソレニ對應スル意味ニ於テ吾々モ大體三十萬石位ノ範圍ニ於テ許サナケレバナラスノデハナイカ、ト申シマスノハ、滿洲ニハヤハリ直接間接ニ軍事關係ナダガアルノデゴザイマス、隨テ之ヲ全然出サスト云フ譯ニハ行カヌノデアリマス、ソレデ大體ノ標準ヲソレ位ニ置キマシテ調節ヲスル積リデゴザイマス

○森下委員 鮮滿拓殖會社ガ出來マシテ、滿洲ニ送ツテ居ル移民ハ大體米ヲ作ルコトヲ許シテ居リマスガ、ソレトモ他ノモノヲ作ルコトニナリマスガ

○大野政府委員 米ヲヤツテ居リマス

○森下委員 將來鮮滿拓殖會社ガ滿洲ニ送

リ出シテ農業ニ從事シテ居リマス——主トシテ産米事業ニ從事シテ居リマス人数ハ御分リデアリマセウカ

○水田政府委員 計數ニ互リマスノデ私カラ御答申上ゲルコトニ致シマス、滿洲ニ移住致シマシタ朝鮮人ノ鮮滿拓殖株式會社取扱ツテ居リマス移民ハ、水田ダケ耕作致シテ居リマスノガ昨年凡ソ三千餘戸ソコノデアルト記憶シテ居リマス、其ノ生産數量ハ昨年ハ大變成績ガ好カツタト云フヤウニ聞イテ居リマス、穀ニ致シマシテ約十九万石程ノ生産ヲ致シタト云フ風ニ承知致シテ居リマス

○森下委員 滿洲ニ於キマシテハ將來堤ヲ切ツタヤウナ勢デ水田事業ニ從事スルモノダト現地ヲ見テ私ハ思ツテ居リマス、滿洲人ハヤリマセヌシ、主トシテ朝鮮ノ人々ガ水田ヲ滿洲デ開墾シテ行ク、是ハヤレバ幾ラデモ出來ルト思ヒマス、此ノ問題ハ滿洲ノ米増産問題ニ飛ビマスカラ打切りマシテ、モウ一ツ關聯事項デ御同致シマスガ、朝鮮總督府ハ内地ノ多大ノ希望ヲ以テ、朝鮮ノ産金ニ努力ヲシテ居ラレルノデスガ、昭和十三年度ノ朝鮮總督府ノ豫想ト、昭和十三年度ニ於ケル實際上ノ成績ニ付テ變化ヲ來シテ居ラナイカドウカ、ソレヲ御同致シマ

ス  
○大野政府委員 十三年度ノ實績ニ徴シマスト  
〔速記中止〕

○大野政府委員 其ノ理由ハ御承知ノヤウニ豫算ハ四月カラヤルコトニナツテ居リマス、其ノ計數ハ十三年ノ曆年ニナツテ居リマス、丁度昨年ノ冬ハ非常ニ寒カツタ爲ニ「ドレッジヤ」ガ動カナカツタ、ソレニ器材ノ配付ガ思フヤウニ参リマセヌ、ソレカラ御協賛ヲ戴キマシタ送電計畫ガマダ效果ヲ現ハスマデニ参ツテ居リマセヌ、左様ナ鑿岩機デアリマストカ、或ハ「ベルトコンベヤ」ト云フヤウナ色々モノノ配給ノ關係ガアリマシテ謂ハバ十三年ハ悲觀材料ガアツタノデアリマス、ソレニモ拘ラズ大體其ノ結果ヲ見マシタノデ、豫定ノ計畫ハ十分私ハ昭和十七年マデニ出來ルト思ツテ居リマス、寧ろ或ル程度其ノ上ニ出ルコトヲ希望致シマシテ、私共當業者ト一緒ニナツテヤツテ居リマス、ドウゾ其ノ點ハ御安心ヲ願ヒマス

○森下委員 有難ウゴザイマシタ、私ハ是デ質問ヲ打切りマス  
○岡野委員 關聯事項デ聽キタイノデスガ、私共聞キ誤リデアリマシタカ、昨年二十

九万石バカリ滿洲ノ方ニ出タト云フコトデアリマスガ、ソコデ今朝ノ新聞ヲ見マスト、滿洲ニ出ルコトヲ禁止セラレルコトガ、大野政務總監ノ決濟ヲ經テ決メラレルト云フ記事ガ出テ居タ、今三十万石以内ハ軍需關係モアツテ出サナケレバナルマイト仰シヤル、サウスルト三十万石ハ出サレル、禁止スルト云フコトハ意味ヲナサヌコトニナルノデスガ、其ノ點ハドウ云フコトニナリマスカ

○大野政府委員 一寸御趣旨ガ分リ兼ネマスガ、斯ウ云フコトニ御承知ヲ願ヒタイ、昨年ハ實績二十九万石出シマシタノデスガ、凡ソノ見當ハ彼此レ三十万石見タノデアリマス、是ダケハ滿洲ニ於テ直接ノ軍事關係トハ一寸申シ兼ネマスガ詰リ軍ノ關係ノ人ノ食糧ナドト云フヤウナ意味デドウシテモ要ルノデアリマス、何處カラ米ガ行カナケレバナラス、ソレヲパタツト止メル譯ニハ参リマセヌ、ソレデヤハリ三十万石位ハ十四年度デモ出サネバナルマイト考ヘテ居リマス、其ノ範圍内ニ於テ朝鮮總督府デ許シテ居ル、サウスルト其ノ積リデ内地モ米ノ計畫ヲ立テルコトニナリマス  
○岡野委員 イヤ今日ノ新聞記事ハ禁止スルト云フヤウニ書イテアツタノデスガ、ソ

レト合ハヌガドウデスカト云フ御尋ラシタノデス

○大野政府委員 禁止ハ致シマセヌ、サウ云フヤウナ趣旨デ制限スルコトニナツテ居リマス

○岡野委員 分リマシタ

○菊池委員長 ソレデハ今日ハ此ノ程度デ審議ヲ止メマシテ、何レ又公報ヲ以テ御通知致シマス、ソレデハ是デ散會致シマス

午後二時二十分散會

昭和十四年二月十日印刷

昭和十四年二月十一日發行

衆議院事務局

印刷者 內閣印刷局